

# 分野別意見交換会報告書 【建設水道常任委員会】

開催日時： 令和5年(2023年) 5月22日(月) 14時～15時30分

開催場所： 箕面市役所本館3階 委員会室

団体名： みのお市民まちなみ会議

出席者： 今枝章平会長、片岡正彦事務局長、木村哲矢理事

出席議員： 神代委員長、尾崎委員、増田委員

傍聴者数： 12人（うち委員外議員10人）

テーマ： 街路樹の維持管理について

## (1)街路樹の役割について

番号	項目	内容
1	箕面市の街路樹	箕面市は山も含めて緑が多い。緑が箕面の象徴であり、それを育てていくのが箕面市の役割である。いろいろな形で協力するので、できれば街路樹は残していった欲しい。
2	中央線の街路樹	市道中央線は、春にはシダレやソメイや八重の桜が咲き、イチヨウの葉も芽吹く。足下の低木にはツツジが咲き、歩道を歩けば木陰が気持ちよい。秋には桜やイチヨウの葉が色づき美しい。
3	通行の弊害	一方で、とにかく道が狭い。なんとか通れるくらいで、自転車通学も多い。スーパーへ買い物に出かける人も、自転車も通りやすい道にできないか。そのためには伐採もやむを得ないのかも。
4	維持管理の負担	街路樹の沿道住民のかた、街路樹の直近に住むかたにとっては、街路樹の手入れや、秋になれば、落ち葉が積もったり銀杏が落ちたり、ご苦労されている方も多いと思う。
5	街路樹の当事者	街路樹はいったい誰のものか、市道に植わっていれば市のものだが、市民の街路樹であり、“私”のためにも植えて貰っている。市民は、自分の街路樹みたいな意識を持っている。
6	市民の方の意見	意見を聞いて回ったが、賛否相半ばする。きれいに切って欲しいという意見、街路樹こそ残さないといけないという意見の両方があり、そのため全体のまちづくりも含め方針を出さないと落ち着かない。

## (2)今後の課題について

番号	項目	内容
1	箕面市の街路樹	世間一般の街路樹の役割を論ずるのでなく、箕面市は何を優先するのか何を残すのか議論すべき。エリアや本数を絞ってでも、街路樹を植えていく、育てていくのが望ましい。
2	中央線の街路樹	市道中央線は、箕面市の中でも看板ともなる大切な道路なので、ここは住民の方に少々我慢していただいても、市民の財産ということで街路樹を丁寧に育てて欲しい。
3	他市の事例	例えば、芦屋市ではマツの並木道が市のシンボルになっている。箕面市の街路樹でも、これはシンボルとして保全する、そういった政策論がないから、切る切らないの議論になる。
4	更新計画の策定	すでにある街路樹の維持管理計画ではなく、更新計画が必要。これまでいろいろバラバラに植えてきた。これからは箕面ブランドをあげるための大方針を作らないといけない。
5	行政の体制	芦屋市は庭園都市宣言を出し、街路樹と公園を一元管理し、市役所の中に専門職がいる。箕面市は、昔は公園課で今は道路課、市の緑全体をどうするのかという視点が必要である。
6	植樹の推進	昨今、大邸宅が売られ一気に緑が減る。新しく立つ邸宅は緑がほとんど無く、申し訳程度に端に木が一本あるだけ。市として、木を植えることでメリットが生じるよう誘導して欲しい。